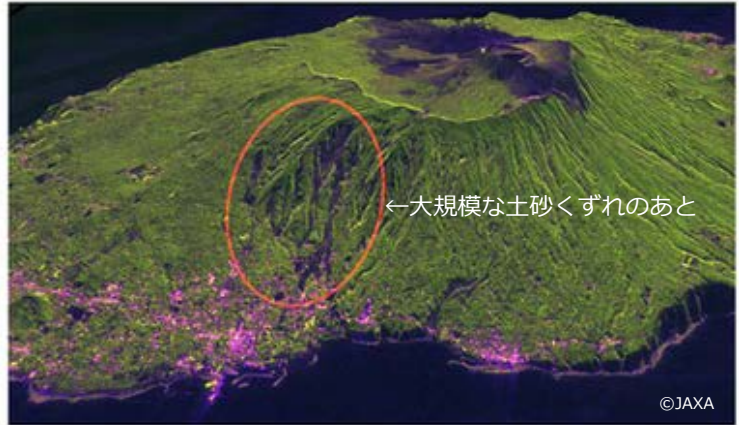


5月24日に打ち上げられた地球観測衛星「だいち2号」から初めての観測画像が送られてきました

大地にも、精密検査が必要だ。



「だいち2号」搭載 PALSAR-2 による伊豆大島の観測画像

この画像は、地表の様子をより詳しく判別するため、観測から得られた電波のデータを用いて疑似的にカラー化されており、大まかに緑色が植生、明るい紫色や黄緑色が市街地、暗い紫は地面そのものを表しています。

日本が世界に誇る「Lバンド地表可視化レーダ」で、大地の様子がはっきり見えた！

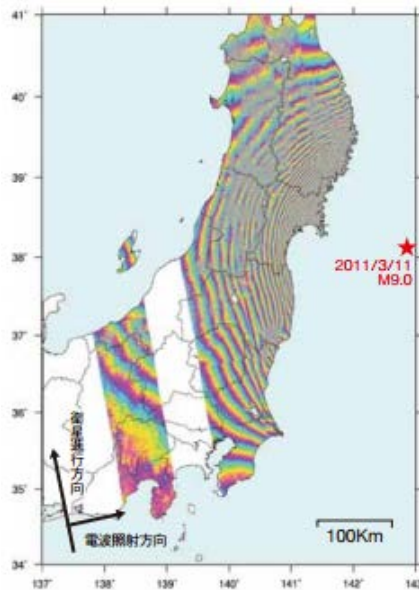
5月24日(土)に打ち上げられた陸域観測技術衛星「だいち2号」は現在観測センサー等の機能確認を行っています。6月27日(金)にその一環で取得された観測画像の一部が公開されました。

上の画像は伊豆大島周辺を拡大したものです。その右の画像は、同じ画像を先代「だいち」の観測で得られた標高データを用いて鳥瞰図として表示したもので、昨年10月の台風26号の大雨による大規模な土砂崩れの跡が、約8ヶ月経過した現在でも明確に見ることができ(図中赤丸内の暗く見える場所)、まだ植生が回復していないと考えられます。

「だいち2号」は、東日本大震災の直後に被災地を撮影した「だいち」の後継機。地上の物体を見分ける能力や観測可能な範囲が向上した「だいち2号」の観測データは、今後昼夜・天候を問わず災害状況の把握などに活用される予定です。

地形の変化を約2cmの精度で捉える

「だいち2号」は、地震に伴う地殻変動、台風や津波による冠水など、災害発生時の被害状況を把握します。また、地滑りや地盤沈下など地形の変化を調べ、防災活動につなげます。

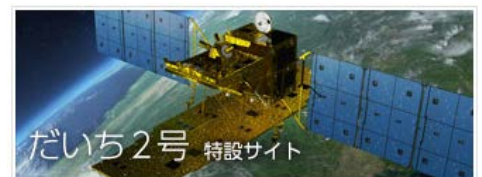


先代「だいち」が捉えた震災直後の地形の変化 ©Analysis by GSI from ALOS raw data of JAXA, METI



「だいち」PALSAR 画像 (2006年4月27日) 「だいち2号」PALSAR-2 画像 (2014年6月19日)

さらに詳しく知りたい方はこちら



ファン!ファン!JAXA「だいち2号」特設サイト <http://fanfun.jaxa.jp/countdown/daichi2/index.html>